

エネルギー政策を巡る動向

—高市政権におけるGXの位置づけ—

竹内 純子

国際環境経済研究所理事・主席研究員

東北大学特任教授

U3イノベーションズ合同会社共同代表

日本成長戦略会議の概要

- 岸田政権、石破政権で開催されていた「新しい資本主義実現会議」を閉じて、「日本成長戦略会議」を立ち上げ。
- 報道等では路線変更が強調されているが、成長戦略会議の第1回で議論された「総合経済対策に盛り込むべき重点施策」については、「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2025年改訂版」での議論の継続性があるものも多い。（自民党日本成長戦略本部長は岸田元首相）
- 第1回では、「危機管理投資」・「成長投資」の17戦略分野および横断的課題に関する検討体制（担当大臣の明示）や、総合経済対策に盛り込み、直ちに着手すべき重点施策等について整理。

来夏の成長戦略策定に向けた検討の結果を待たず、直ちに実行すべき重点施策を盛り込む。

（１）「危機管理投資・成長投資」による力強い経済成長の実現

（１７分野）

- ① AI・半導体、② 造船、③ 量子、④ 合成生物学・バイオ、⑤ 航空・宇宙、
- ⑥ デジタル・サイバーセキュリティ、⑦ コンテンツ、⑧ フードテック、
- ⑨ 資源・エネルギー安全保障・GX、⑩ 防災・国土強靱化、⑪ 先端医療、
- ⑫ フュージョンエネルギー、⑬ マテリアル（重要鉱物・部材材）
- ⑭ 港湾ロジスティクス、⑮ 防衛産業、⑯ 情報通信、⑰ 海洋

元に戻す（拡大）

（２）分野横断的課題

（課題）

- ① 新技術立国・競争力強化、② 人材育成、③ スタートアップ
- ④ 金融を通じた潜在力の解放、⑤ 労働市場改革
- ⑥ 介護・育児等の外部化など負担軽減、⑦ 賃上げ環境整備
- ⑧ サイバーセキュリティ

※他の本部と連携して進める課題

・米国関税措置への対応、・地域経済の活性化

日本成長戦略会議におけるGXの位置づけ

- 「高市政権ではGXはトーンダウン」なのか？



成長する日本のために、今、何をすべきか(第1回会議提出資料)

① エネルギーを安定的に、できる限り安く。

- 国民生活・経済活動はすべて、エネルギーを必要とする。成長戦略の最初の一步は、エネルギーを安定的に、できるだけ安価で確保すること。
- DXや半導体産業の成長を妨げないよう、電力供給力を確保する必要。そのためには、既存の施設の活用が重要。
- 既存の原子力発電所の活用に向け、安全規制の最適化、立地地域の理解・安心の獲得、事業の健全な発展に資する原子力損害賠償制度の構築が必要。
 - ✓ 次世代原子力技術開発が進んでも、現状では日本での活用が進まない。
- 既存の火力発電の維持・燃料調達の確保にも取り組む必要。
 - ✓ 電力自由化による競争と、再生可能エネルギーの導入が重なり、稼働率が低下した火力発電所の休廃止が相次ぐ。これを延期し、供給力の維持を図るべき。
 - ✓ 国内のLNG火力発電新設・建替に加えて、わが国の高効率火力発電技術の海外展開を支援し、経済成長と低炭素化の相克に悩む東南アジア諸国と連携。

成長する日本のために、今、何をすべきか(第1回会議提出資料)

② GX投資のメリハリと、カーボンプライシングの調整

- GXには莫大な投資が必要。
- 費用対効果の高いGX投資とするには、下記2つの条件が整うことが必要。
 - i. 技術普及に向けた投資は、インフレ局面を避ける
 - ii. 各国がCO2削減の価値に対して対価を払う意思を持つこと
- いま行うべきはメリハリある投資と需要創出。例えば、
 - ✓ 技術開発への投資強化
 - ✓ 普及期一歩手前の技術に対する公共調達強化
 - ✓ 災害対応、インフラ老朽化、人口減少・過疎化など他の社会課題解決との融合的価値を持つ技術・取り組みへの投資
 - ✓ 水素の値差補填は、タイミングと規模を再検討。
 - ✓ わが国の省エネや天然ガス火力発電技術の国内外への展開支援
- カーボンプライシングについては“スモールスタート”で。
 - ✓ 既存のエネルギーコストを上昇させるので、成長の腰折れをさせないように注意。
 - ✓ 排出量取引(GX-ETS)は、制度がうまく回るか、国民と産業が負担に対応できるか不明であるため、当初5年程度は、上限・下限価格を低く抑えるべき。

成長する日本のために、今、何をすべきか(第2回会議提出資料)

③ 日本の教育改革を急ぐべき

- 教育はいま「何を提供すべきか」を問い直すべき必要がある。
例：生成AIとの共存を前提とした課題発見能力や仮説を立てる構想力を育む。
出生数減少の中でも多様な価値観との触れ合いを確保する
- 具体的に採るべき施策として下記のような案が考えられるのではないか。
 - ✓ IT・投資リテラシーを向上させるカリキュラムの導入
 - ✓ 女子の理系進学促進(工業高校の女子定員制など)
 - ✓ 国立大学の原子力学科再興
 - ✓ 高等専門学校(高専)の充実
 - ✓ 飛び級の促進
 - ✓ 学び直し・学び続けに対する支援拡大

GXを進めるには何が必要か

- エネルギーの議論は、供給側の視点に寄りがち。社会変革として進めるには、需要側の転換が重要。
- 「カッコいい」、「楽しい」、「快適」な商品・サービスを提供し、それが結果としてCO2削減にも寄与すること。CO2削減の価値を共有する努力とともに、そこに偏りすぎないことが必要ではないか？



ご清聴ありがとうございました

気候変動 エネルギーがわかる



竹内純子のEnergy Talk

@竹内純子のEnergyTalk・チャンネル登録者数 565人・13本の動画

竹内純子のEnergy Talkでは、エネルギー・環境・気候変動の最新トピックを、わか...さらに表示

u3i.jp

チャンネルをカスタマイズ

動画を管理



竹内純子のEnergy Talk

